



ベースボール分科会情報



昨年の武蔵野大会で新設

分科会再編により、昨年から教科別のベースボール分科会が新設されました。昨年の武蔵野大会では、同志会の運動文化論に基づく実践・研究をベースボール分野においても進め、それぞれの発達段階に応じて誰もがベースボールの楽しさを味わい、その文化・歴史・社会性を学ぶことができる授業づくりをめざしたいと提案しました。そして、研究の柱として、①技術の特質、基礎技術、系統性を明らかにしながら、誰もが楽しみを味わえる授業づくりを追求する ②ベースボールに関する諸問題を調査・研究し、その全体像を浮かび上がらせ授業づくりに生かせるようにする ③実技を通して、私たちが目指すベースボールを体験・交流する の3つが確認されました。

また、分科会の討論では、ベースボールの特質について活発な議論が行われ、「投げられたボールをバットでフェアゾーンに打ち返し、打者およびランナーは進塁し、ホームベースを踏むことで得点を得る。攻防は3アウトのイニング制で行う。守備側は進塁を阻止する」ということがまとめられました。

ベースボール型の授業づくり

さて、WBCや大リーグでの大谷選手の活躍からくるベースボール熱が、児童・生徒、青年たちにどのような影響を与えているのでしょうか。160kmを超える豪速球や早く大きく曲がるスーパースピナー。120mを超えるアップスイングによるホームラン。送りバントをしない戦術や強打者の2番打者起用な

ど、テレビから見えてくるベースボール文化は、すさまじい変化を遂げています。このような状況を、私たちが相手にする子どもたちはどう感じているのでしょうか。私たちが教えようとする「打たせる投球」やホームランなしで野手の間を抜くバッティング。「進塁か・とどまるか」の判断やどこのベースに送球するか。あるいは、どのベースをカバーするかなど、ベースボール型の授業づくりにおける課題は多岐に及んでいるように感じます。

愛知・みはま大会で

今年のベースボール分科会では、愛知・みはま大会のテーマである「ともに生きる文化のまなび」を念頭に置きながら、ベース3on3や三角ベースから菱形ベースへの発展を基本として、それぞれの発達段階に応じた教材づくりの研究を進めていきたいと考えています。

2023年愛知・みはま大会の報告は以下の通りです。

- 基調提案
- 研究提案
- 実践提案：小学校6年生のベースボール実践
- 実践提案：中・高生のベースボール実践
- 実践提案：女子大学生のベース3on3実践

どうぞご期待ください。多くの参加者をお待ちします。